

んでください。なお、地方からの場合は、下記にご連絡ください。

東京都千代田区神田駿河台

明治大学 11号館研究室

システム・ダイナミクス研究部会

(主査 島田俊郎)



関西支部

1. 昭和48年度活動状況

本支部では、前期よりひき続き支部事業としてOR研究講演会を開くこととなった。本年度は、担当者として6人の方々に依頼している。現在までのところ、つぎの研究講演会が開かれた。

- (1) 「PPBSにおける行政需要の把握について」
河崎 俊二氏(神戸商大)
「神戸市における行政OR」
高寄 三郎氏(神戸市役所)
主査 伊賀 隆氏(神戸大)
- (2) 「Portfolio Selection」
国沢 清典氏(東京工大)
主査 坂口 実氏(阪大)
- (3) 「需要予測についての一考察」
森 健一氏(大阪府大)
「情報論的考察による需要予測」
太田 宏氏(大阪府大)
主査 加瀬 滋男氏(大阪府大)
- (4) 「多変量解析の最近の話題」
丘本 正氏(阪大)
主査 坂口 実氏(阪大)
- (5) 「多変量データ解析結果の図的表示について」
後藤 昌司氏(シオノギ製薬)
松原 義弘氏(")
「変動期におけるマーケティングの考え方や意志決定」
岡沢 宏氏(住友化学)
主査 朝尾 正氏(田辺製薬)
後藤 昌司氏(シオノギ製薬)

2. 支部総会

本年度の支部総会を昭和48年5月15日(火)14:00～17:00に関西情報センター会議室で開催した。当日の議題はつぎのようなものであった。

- 1) 昭和47年度事業報告、決算案承認の件

- 2) 昭和48年度事業計画、予算案承認の件
- 3) 役員の改選
- 4) その他

なお、同時につぎの特別講演を聞いた。

「プランニング・システムについて」

大野 豊氏(京都大)

「組合わせ計画法をめぐって」

茨木 俊秀氏(京都大)

3. 支部長、副支部長の改選

前支部長、副支部長の任期が満了になったので、改選の結果、支部長として朝尾 正氏(田辺製薬)、副支部長として三根 久氏(京都大)が選出された。

4. 支部役員の改選

昭和46年度よりの10名は任期がきたので、おもにこれらの方々について検討された。その結果、昭和47年度よりの委員はそのまま継続していただくほか、朝尾 正氏(田辺製薬)、三根 久氏(京都大)、加瀬滋男氏(大阪府大)、南 俊次氏(阪神高速公団)に新たに委員として残留していただくことに決定した。監事として新たに花岡信平氏(住友銀行)に就任していただくことになった。

中国四国支部

48年の支部活動は支部規約改訂の検討から始まった。法人化による本部規約改訂にともない、支部規約整備の要求に応じるため、支部幹事が2月、3月に数回にわたって集まり、支部規約の充実をはかった。その結果、満足すべき規約案がまとまったのはいうまでもないが、幹事の活動が調子づき、48年の支部活動が活発化したもをつくったといえる。

さて、以下48年度の行事概要を紹介しよう。

○48. 4. 18 支部総会

従来、総会は型どおりに議事をすすめるにすぎなかったが、今年は支部運営について活発な意見が出された。曰く、47年の行事はコンピュータ関係が多すぎる。コンピュータの話題ばかりやっていてよい

と思うか、とか、OR がほんとうに役立つのはどう
いう状況をいうのかとか、どろくさい OR の推進を
やるのではないか、etc. 結局幹事会を強化し、48年
は岡山地区で行事開催を一つのポイントとして支部
活動を活発化することになった。

○48. 6. 7 研究会

テーマ 予防保全と取替問題について

尾崎 俊治(広島大学)

テーマ 預金のオンライン・システム

近藤久二啓(広島銀行)

前者は、取替問題の最近の理論をきわめて明解に
紹介され、後者は銀行のオンライン・システムを作
り上げる苦心談を紹介されたもので、理論編と実務
編とそれぞれ1時間半を有意義にすごした。

○48. 6. 18 研究会

テーマ 多種少量生産管理システム

柴川 躬行(東洋工業)

1台の工作機械が設計開始されてより出荷される
までの全過程を対象としたもので、このシステムに
は、各種事務の合理化、大日程管理、在庫管理、発
注納入管理、工程管理、工数管理などが含まれる。
問合せディスプレイ、マークシートリーダーの利用を
含め、HITAC 8300を1台専用で使用している。

○48. 6. 29 見学会

広島中央健診所における健康診断システム検査ル
ームの配置、検査結果の入力方法、などきわめてシ
ステムティックなものであった。

○48. 7. 18 講演会

演 題 Fuzzy Graph について

西田 俊夫(大阪大学)

本部の月例講演会で、Graph 理論に Fuzzy Set の
概念を導入したお話で、人間関係の表現などの事例
も紹介され、きわめてわかりやすいものであった。

○48. 9. 4 講演会

演 題 信頼による管理について

茅野 健(オーケン)

仕事に生きがいを求め、一人一人の人間が主体性
と創造性をもって働ける職場づくりのお話で深い感
銘を与えた。

○48. 10. 9 研究会

テーマ 微分方程式の数値計算——数値解法とし
ての差分法と有限要素法——

中川 友康(電力中央研究所)

従来、研究会のあと多数の参加者と同時にはつっ
こんだ討議もしにくい面もあり、物たりなさを感じ
ていたので、今回は研究会終了後、参加者から有志
数名をつのり、別室で講師をかこみ意見交換を行な
った。非常に話題がはずみ、今日の試みは成功した
と考えている。

○48. 10. 12 講演会

演 題 オペレーションズ・リサーチの問題点

小野 勝次(会長)

懸案の岡山市で開催した講演会で、OR 学会の行
事としては初めての岡山であったが、100名をこえ
る盛会で、会員数はほんの数名の地でありながら会
員外の方々の OR への関心の深さがうかがえた。会
長のお話を紹介すると、まず OR の特質として最適
化を考えることとモデルで考えることをのべられた。
最適化については価値の問題にふれ、モデルに
ついては体育モデルを例に話された。また、学会の
問題として、学者と企業とが離反しないためには、
お互いに相手の立場に立って共通の土俵を作りなが
ら話をすべきで、いたづらに話をむずかしく発表し
たり、ある集団に属する人々に通ずる陰語に類する
言語を用いるのをやめるように指摘され、大きなア
イデアは分野の異なる人にもわかりやすいもの、ま
た、人間性の OR への反映を考えなくてはいけない
と結ばれた。(権藤記)



会 合 (48年12月～49年1月)

(カッコ内は出席者数)

第5回理事会 49.1.10 (13) 議題 1. 第4回
議事録の承認 2. 49年度事業計画書の件 3. 49

年度予算書の件 4. 春季研究発表会準備委員会設
置の件 5. 定期総会の開催日時の件 6. 賛助会
員への会費値上げ連絡の件 7. 研究部会設置の件
8. 臨時総会および秋季研究発表会の報告 9. 入
退会の件 10. 会長候補者選考委員会の件 11.